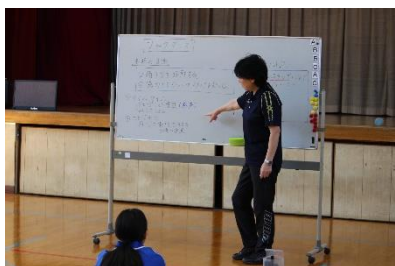


令和2年度「学び合い」 第3回「体育」授業研究より

10月23日（金）、第四中学校にて、第3回校内授業研の「体育」の授業が行われました。授業での「学び合い」の活動はもとより、「良い授業が良い授業だといわれる所以」を肌で感じる授業となったと、三原市教育委員会山田清志指導主事にご講評をいただきました。「広島県版『学びの変革』」で行われてきた授業改善に加え、来年度からは新学習指導要領の本格実施。求められることや時代が変わっても、いつの時代も良い授業は良い授業。教科の枠を超えて授業改善に取り組んでいってくださいとのことでした。



授業の“匠” プロフェッショナル



「学び合い」でダンスを思い出す



終わったあとにはこの笑顔😊

協議会のまとめ

1. 今日の授業から ～「学び合いの手法」について～

- 3人組のグループが構成され、グループ内で「学び合い」が行われた。その中で、「誰一人取りこぼしのないように」という三島先生の言葉が伝わった。チーム内で責任をもたせていく。そういった教員側のアプローチがあった。
- 今回の授業では、ついていけない人をサポートしながら教えられた生徒が多かった。こういう活動のために「学び合い」そのものの目的を再確認し、教師と生徒の目的を一致させることが必要。それは、「一人も取りこぼさず、全員が理解できる」ことであり、活動の中でできた良さや改善点のフィードバックを的確に行っていく。

2. 山田清志指導主事の指導助言から

- “匠”の授業。いつの時代も良い授業は良い授業ですね。いかに効率的に、論理的に授業を展開するかということが丁寧に考えられた授業。
- では、「良い授業」とはどのような授業か。一番は「生徒のやる気（学習意欲）を引き出す」授業。その「やる気を引き出す」ための工夫が随所に見られたのが今日の授業であった。その工夫とは、1つは「生徒指導の三機能を活かした授業づくり」、もう1つは「視覚化・焦点化・共有化された授業づくり」である。
- 焦点化・・・短い言葉で明確な指示。 視覚化・・・シンプルで1時間の流れが分かる板書構成。共有化・・・スモールステップの達成感を味わわせる自然な声かけ。
- これからの授業改善を進める上で気を付けたいことは、「主体的・対話的で深い学び」のとらえ方。右の①のようにとられ、「主体的・対話的であれば深い学びになる」と考えられがちだが、そうではない。②のように、相互に影響し合っていることを意識できるとよい。
- 良い授業の本質は教科を超えていくもの。授業研究を行ったあと、参観者が同じ視点でメモをとっていることに授業の本質が現れている。

